



日本デザイン学会の紹介

小林 昭世*

Introduction of Japanese Society for the Science of Design

Akiyo KOBAYASHI*

Abstract– Japanese Society for the Science of Design (JSSD) was founded in 1953 with the aim of contributing to the progress and development of academic research on design through the cooperation of its members. Currently, JSSD has around 2,000 members, five regional branches, and 20 research SIGs. Its activities are publicized through research presentations, symposia, several journals on research in English and Japanese versions, on design productions and on special issues.

Keywords– Design, JSSD, Transdisciplinary Federation of Science and Technology

1. 日本デザイン学会の設立と現在の概要

日本デザイン学会 [1] は、「会員相互の協力によってデザインに関する学術的研究の進歩発展に寄与する」ことを目的として、1953年に設立され、活動している日本学術会議登録・認定の学術団体です。日本デザイン学会が設立された1950年代には、デザインの対象がラジオやテレビなど放送や「コミュニケーション」、また都市景観などの「環境」に拡大され、デザインを支援、振興する諸団体が設立される中で、デザインの理論的な研究を行う目的で組織された「デザイン問題研究会」を前身として設立されました。デザインの起源については諸説がありますが、19世紀イギリスの美術工芸運動においては、生活のために自然と共生する家やコミュニティの形成、労働の喜びの再定義などが課題となり、また、その流れを汲んだ20世紀初頭バウハウスの運動では、異なる専門家の共同作業やチームワーク、芸術と技術の統合、都市における集合住宅などが課題となりましたが、同時期のシュンペータのイノベーションの考えやドイツ工作連盟の目的である政府、企業家、技術者、建築家、芸術家の協力による産業育成、振興という目的と共振しながら、デザインの課題は提起されました。デザインとその歴史は、工芸や建築の歴史と重なることが多いですが、19世紀20世紀の社会の変革運動を基盤とした点に特色がある、とすることができます。

2022年春に開催された研究大会では、約300の研究発表、ポスター発表が行われました。研究発表のセッションのタイトルを列挙すると、デザインの研究テーマの一例に過ぎませんが、芸術、技術、生活や産業との関わりで広がってきた以下のデザインの研究の事例を見ることができます。

- (1) デザイン実務としてのデザインの分野に関する研究：家具、木工、インタフェース、情報デザイン、建築、インテリア、デザインシステム・形態、構成・グラフィック、景観デザイン、環境デザイン、ユニバーサルデザイン、など
- (2) デザイン知識とその運用に関する研究：デザイン計画、材料計画、デザインマネジメント、デザイン方法論、デザイン評価、など
- (3) デザインの発展、啓蒙や批判を伴う研究：デザイン史、デザイン教育、デザイン論
- (4) デザインとの関連性を増している研究領域からのアプローチ：地域振興、地域研究、感性工学、人間工学、感性工学、など

2. 日本デザイン学会の歴史

1953年、日本デザイン学会は、デザインの理論的な研究を行う目的で組織されたデザイン問題研究会を前身として設立されました。1954年、第1回総会を開催し、初代会長に千葉大学工業意匠学科教授の小池新二を選出し、会員数71名で発足しました。11月には第1回研究発表大会を東京教育大学にて開催しました。1956年に

*武蔵野美術大学教授、日本デザイン学会会長

*Professor at Musashino Art University, Chairperson of Japanese Society for the Science of Design (JSSD)

Received: 22 January 2023, Accepted: 10 February 2023.

は学会誌「デザイン学研究」を創刊しました。2016年に組織を法人化、一般社団法人日本デザイン学会となりました。現在、会員数は最大時より減少しており、正会員、学生会員、賛助会員、年間購読会員、名誉会員など2000名弱です。

3. 日本デザイン学会の活動

現在の主な活動は、以下の通りです。

- (1) 春季に開催される研究発表大会：発表件数は250～300件
- (2) 秋季に開催される企画大会：テーマに基づくシンポジウムなど
- (3) 特定のテーマに関する会員相互の研究交流を促進する研究部会活動：用語部会、教育部会、メディア&デザイン部会、デザインサーベイ部会、家具・木工部会、プロダクトデザイン部会、環境デザイン部会、デザイン史部会、デザイン科学研究部会、ファッションデザイン部会、情報デザイン研究部会、創造性研究部会、タイポグラフィ部会、サービスイノベーションデザイン研究部会、バイオメディカルデザイン研究部会、プロモーションデザイン研究部会、子どものためのデザイン部会、タイムアクシスデザイン研究部会、農業デザイン研究部会、アジアデザイン研究部会
- (4) 各地に広がる会員の地域における研究発表や交流のため、北海道・東北地区、関東地区、北陸・中部地区、近畿・中国・四国地区、九州・沖縄地区の五つの支部による、研究発表会、研究会、見学会、ワークショップなどの開催
- (5) デザイン学研究、研究論文集年6回（電子媒体閲覧）の刊行
- (6) 英文誌 *Journal of the Science of Design* 年2回（電子媒体閲覧）の刊行
- (7) デザイン学研究特集号年2冊（紙媒体郵送）の刊行
- (8) デザイン学研究作品集年1冊（電子媒体閲覧）の刊行
- (9) デザイン学研究、研究発表大会概要集年1回（USB配布など）の刊行

4. 日本デザイン学会の連携、協力活動

日本デザイン学会の活動は、自律した活動の他に、外部組織・団体との連携、協力活動も多くあります。

- (1) 国際デザイン学会連合：International Association of Societies of Design Research (IASDR) の中核学会として、隔年開催される国際会議の運営に参画し、

アジア、ヨーロッパ、アメリカをはじめ国際的な学術連携を推進

- (2) 学術会議、異分野の融合を促すため文理にまたがる35以上の学会が加盟する横断型基幹科学技術研究団体連合（横幹連合）をはじめ、自然科学、人文・社会科学、工学などを横断する学会との連携を推進
- (3) 芸術学関連学会連合：芸術の哲学、歴史、諸芸術ジャンルの14の学会が加盟し、シンポジウムを共同開催
- (4) 日本工学会
- (5) Design シンポジウム：日本機械学会、精密工学会、日本設計工学会、日本建築学会、人工知能学会、日本デザイン学会によりデザイン・設計に関する会議を隔年開催
- (6) デザイン関連学会ネットワーク：意匠学会、基礎デザイン学会、芸術工学会、道具学会、日本デザイン学会によるシンポジウムを毎年開催

5. 日本デザイン学会の課題

日本デザイン学会は、現在、以下の課題があり、検討をしています。

- 会員数減少傾向に関する対策、特に、学生会員の研究の継続性確保と正会員への移行
- 論文投稿数増加に向けた施策
- デザイン実務者や企業、職能団体との連携
- 若手会員による学会活動の活性化
- 事務局及び運営の効率化

参考文献

- [1] 日本デザイン学会, <http://jssd.jp/>

小林 昭世



1955年生まれ。1981年武蔵野美術大学大学院（修士課程）修了。現在、武蔵野美術大学教授。専門はデザイン。特にデザイン理論と方法論、デザイン史、形と色の研究。<http://profile.musabi.ac.jp/page/KOBAYASHI_Akiyo.html> ほか。